

◆特別講義②〔北ヨーロッパにおける公共図書館の意義と役割〕◆（講師：吉田 右子）

以下の回答で不十分な場合は、吉田のメールアドレスまで、どうぞお問合せください。

質問 1

大変興味深い講義をありがとうございました。北欧では図書館がすべての住民に情報・メディアへのアクセスを保障するという考えで様々な機能を併せ持っている点で、重要な社会インフラになっていると感じました。特に学びの場（エンパワーメント）として沢山の幅広い学びのコースがあるようにお聞きしましたが、それには司書や職員がどのように関与しているのでしょうか。自らが主催・担当しているのなら司書や職員の方々の育成・研修等も充実していると思いますし、館外の団体や企業、個人と連携しているのなら、その条件（頻度、費用、資機材等）はどのようになっているのでしょうか。個人的には、今後 IT リテラシーが非常に重要になる中、IT サポートサービス（特にレファレンス！）があるのが素晴らしい、こんなサービスが身近にあってほしいと強く思いました。

回答

北欧には公民館がありませんので、公共図書館が日本の公民館で開催しているようなプログラムもすべて図書館で実施しています。プログラム自体に関わる講師などは外部から招きます。司書の仕事は、そうしたプログラムの調整（講師の調整、場所・時間の調整）となります。

公共図書館で行っている宿題カフェ、言語カフェなどは自治体の NGO 団体・ボランティア団体関わっている場合が多いようです。関連団体から講師として図書館に来てもらいます。

また公共図書館での色々な相談事に対応するために、外部の専門職が公共図書館にたくさん出入りしています。例えば若者の相談にのる教育カウンセラーや無料法律相談を行う弁護士などです。これらの専門家のアレンジも司書の仕事となっています。

これらの専門職への謝礼の支払いは公共図書館の予算から行います。が、中にはボランティア・スタッフがプログラムを担当している場合もあり、謝金は支払われないケースもあります。プログラムの頻度は定例プログラムの場合は、1 週間に 1 度程度が標準です。設備・機材（そしてお茶やお菓子が出されることがとても多いのでそれも）を図書館が準備します。特別なプログラム・新規のプログラムの場合は、図書館側に対応するリソースがない場合もあります。そうした場合は、外部資金を獲得することでプログラムを進めることがあります。外部資金には民間企業からの資金もありますが、国が特定のプロジェクト（例えば移民を対象とした生涯学習プログラムなど）を募り、そこに公共図書館が応募するのが最近の一般的な方法になっています。

IT プログラムは、北欧の公共図書館では本当に力を入れていて、基本的に IT の相談事は公共図書館で、できるようになっています。特に難民や高齢者を対象としています。北欧はペーパーレスが進んでいてほぼ全ての行政手続きはオンラインで行われています。ですの

で IT リテラシーが欠如していると、基本的な生活が立ち行かなくなってしまう状況に陥ります。そうしたケースがないように、公共図書館は IT に関して脆弱な人々を社会的に包摂するために、あらゆる対策を行っています。IT プログラムに関しては、他の文化プログラムと異なり、司書が講師となる場合が多いようです。これは司書養成プログラムに IT の知識が組み込まれているためです。

質問 2

北ヨーロッパ図書館における所蔵書籍の管理・保護について、ご教示願います。

①BSD は設置されているかどうか、されているとすれば施設全体かどうか、未設置であれば、その管理方法はどのようなものか。

②汚損した場合は、図書館の対応方法はどのようなものか。以上 2 点です。

回答

(1) フィンランドを除いて、ほぼ全ての公共図書館に BDS が設置されています。フィンランドで BDS が設置されていませんが、特別な管理方法は取られていません。『フィンランド公共図書館』(新評論, 2019) p.218-220 も合わせてご参照ください。

(2) 汚損した場合には、程度によりますが、原則として補償金を支払います。

「フィンランド・ヘルシンキの図書館料金表」をご参照ください。

[http://www.helmet.fi/Preview/en-](http://www.helmet.fi/Preview/en-US/Info/Using_the_library/Loan_periods_and_fees(37613))

[US/Info/Using_the_library/Loan_periods_and_fees\(37613\)](http://www.helmet.fi/Preview/en-US/Info/Using_the_library/Loan_periods_and_fees(37613))

* 延滞料、補償金などが示されています

質問 3

大変勉強になりました。今回、事例として紹介された公立図書館の中に県立に該当する図書館はあったのでしょうか。また国立図書館も紹介されたような感じなのでしょうか。(国立、県立、市町村立ではそれぞれ役割が違うのではないかと考えているため照会いたします。)

回答

今回事例として紹介した公立図書館は、県立図書館に該当する図書館はありません。ちなみに北欧では県立図書館は独立して設置されず、大規模サイズの市立中央図書館に県立図書館の機能が組み込まれています。国立図書館は公立図書館とは機能・サービスが異なり、国全体の図書館サービスを多様な側面からサポートします。日本の国立国会図書館の役割と同様です。また北欧にはプリントディスプレイのために、独立した国立図書館が存在します。

質問 4

たいへん興味深く伺いました。北欧レベルの図書館になるために日本の図書館がすべきことはまずなんだとお考えになられますでしょうか？先生の私見をお伺いしたいです。

回答

日本の公立図書館のレベルは非常に高いと思います。一番重要なのは利用者に図書館の多様な機能と役割を知ってもらうこと、実際に来館して図書館で過ごしてもらうことだと考えます。そして何よりも図書館で自由におしゃべりができるような空間を用意できると思います。賑やかな図書館を否定する人が最初は（ものすごくたくさん）いるかもしれませんが。デンマークも50年前は図書館は静まり返っていたそうです。でも今は皆普通に図書館でおしゃべりしています。児童室から溢れでるおしゃべりや笑い声を館内全体に伝播させていくのもよいかもしれません。

質問5

大変学び深いご講義をありがとうございました。質問ですが、北欧ではレファレンスが大人気で待ち番号が発生する…というご説明に驚愕しました。日本ではまだまだ知られておらず、使われていないのが実情だと思います。吉田先生の知見から、北欧でのレファレンスアピール（PR）で、日本でも有効と思われる事例をご紹介ください（今年の秋の読書週間で、レファレンスPR展開を考えているため、参考としたいのです）。

回答

「レファレンスコーナーでは、原則として何でも質問できる」ことを利用者に知ってもらうのが一番重要だと思います。「こんなことが回答可能です」あるいは「こんなことを聞いてください」という例を、わかりやすく大きく示してみたり、SNSで利用者にアピールするのはいかがでしょうか。あとレファレンスコーナーはかなりハードルが高いので、思わず近づいてみたくなるような雰囲気を出せるといいですね。あるいはレファレンスコーナーではないところでレファレンスサービスを開始して、レファレンスコーナーに戻ってくるのも良いかもしれません。実際にフロアでレファレンスサービスが始まることはとてもよくあるボタンです。

質問6

職員不在のオープンライブラリで犯罪ほとんど無しのデンマークは素晴らしいと思いました。排架等の職員がする（と考えられる）業務はどうなっているのですか？

回答

オープンライブラリ以外の時間に、通常業務を行います。ちなみに司書は専門業務に従事していますので、排架作業は行わず排架業務を専門に担うアルバイト職員（学生が多いです）が行います。

質問7

図書館が増えている現状で予算が減っている中、新たな財源措置等の計画はないのでしょうか？

回答

北欧でも図書館予算の削減は、最大の課題です。また自治体レベルで他の文化機関との予算の競争も大変厳しくなっています。新しいサービスを展開する場合などは、民間組織が提供する外部資金を用いたり（質問 1 の回答もご参照ください。）、文化省が募集するプロジェクトに申請し、予算を獲得することも多いです。

質問 8

電子書籍の普及率が 100%とのことでしたが、必要経費の内訳や、日本との制度の違いが分かれば教えていただきたい。

回答

公共図書館の資料費のデジタル資料に占める割合は、2014 年には 17%、2019 年には 30% となっていました。デジタル資料の中には、オンライン・オーディオブック、電子書籍、映画などが含まれます。（出典：Folkebiblioteker i tal 2019, p. 52 . https://slks.dk/fileadmin/user_upload/SLKS/Omraader/Kulturinstitutioner/Biblioteker/Biblioteksstatistik/Folkebiblioteker_i_tal_2019.pdf）

電子書籍を借りる場合は、主として ereolen (<https://ereolen.dk/>) という電子書籍ポータルサイトを利用します。図書館カードを持っていれば居住区によらず、このサイトから自由に書籍の借り出しができます。それ以外にも自治体ごとに図書館が用意している電子書籍のサイトがあります。ereolen の普及を目指し、各図書館では利用者に電子書籍の利用を呼びかけています。

質問 9

にぎやかなスペースと静寂ゾーン、文化的な楽しみと知的緊張感など対立要素が同時に存在するような北ヨーロッパの図書館のような素晴らしい図書館が日本にもあるのでしょうか。もしくは、それに近い図書館があれば御紹介いただけないでしょうか。

回答

日本にもたくさんあります。特に 2010 年以降に新たに設置された大規模公立図書館では、北欧スタイルの図書館空間が実現されています。例えば「日本図書館協会建築賞」を受賞した公立図書館 <http://www.jla.or.jp/committees/shisetu/tabid/701/Default.aspx> などです。